

6月の県内景況調査結果の概要

1. 主要指標の前年同月比DI値の動き

令和4年6月のDI値は8指標中、「景況」「売上高」「収益状況」「販売価格」「取引条件」「資金繰り」の6指標が上昇し、「設備操業度」は横這い、「雇用人員」においては下落となった。

2. 県内中小企業の景況の現状

今月は、販売や生産量、出荷量が上向きとの声や、納涼市や阿波踊りで組合が忙しくなっている、新テナントの入店が決まるなどの明るい報告が寄せられた。

主要なDI値では回復の傾向を示しているが、原材料やエネルギー高騰が続く中、価格転嫁が思うように進まない等、利益の確保が難しいとの声もあった。運送業では交渉に至らない状況の事業者もいるようで、大きな課題となっている。また、印刷業も用紙や副資材等の価格が上昇しているが、価格転嫁に進んでおらず今後も厳しい状況が予想される。

経済社会活動の清浄化が進む中、各種政策により景況が持ち直していくことが期待されるが、引き続き金融資本市場の変動や原材料閣の上昇、供給面での制約等による下振れリスクに十分注意する必要がある。

最近の主要指標の前年同月比DIの推移

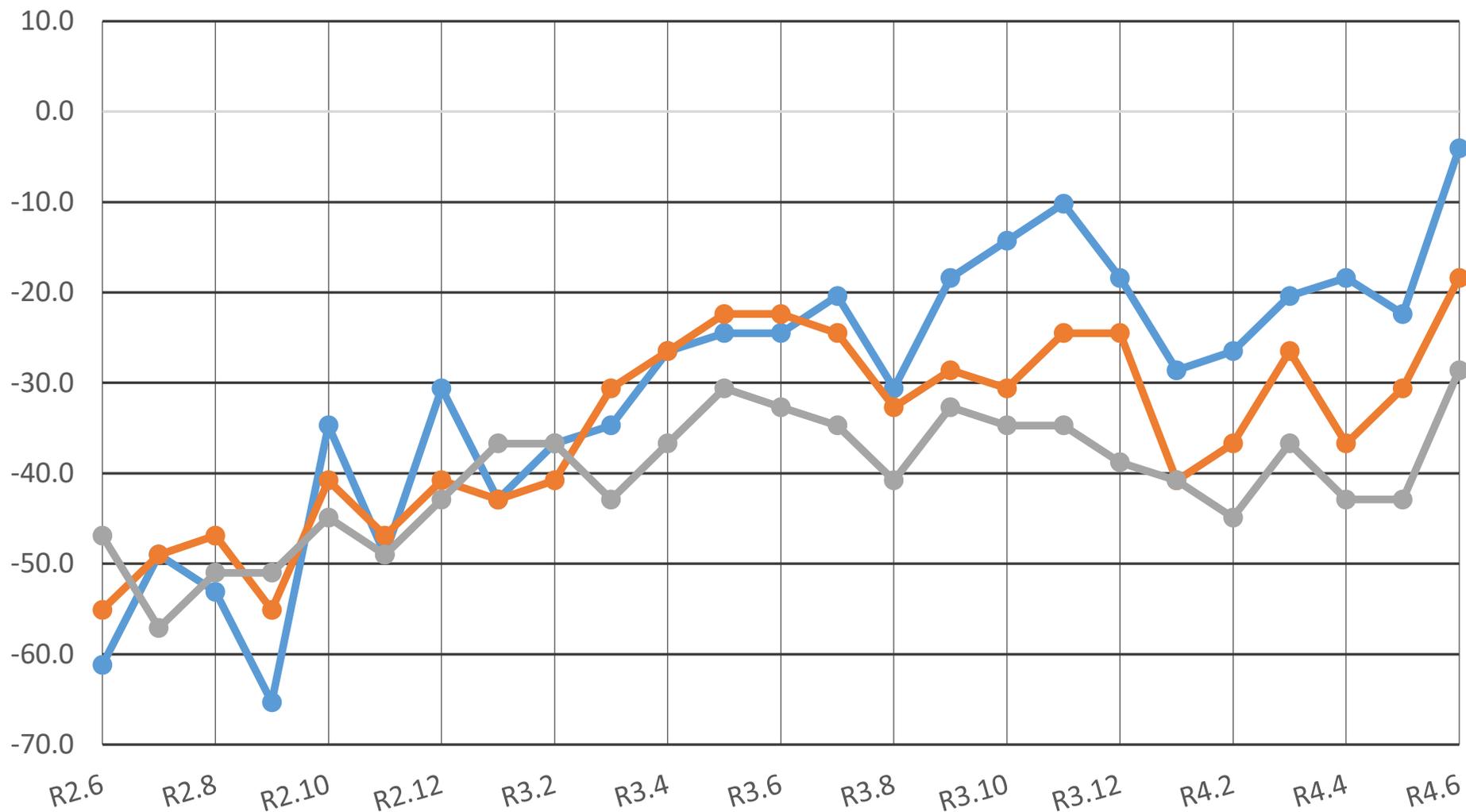
	R3 6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R4 1月	2月	3月	4月	5月	6月	前月比 増減
景況	-32.7	-34.7	-40.8	-32.7	-34.7	-34.7	-38.8	-40.8	-44.9	-36.7	-42.9	-42.9	-28.6	14.3
売上高	-24.5	-20.4	-30.6	-18.4	-14.3	-10.2	-18.4	-28.6	-26.5	-20.4	-18.4	-22.4	-4.1	18.3
収益状況	-22.4	-24.5	-32.7	-28.6	-30.6	-24.5	-24.5	-40.8	-36.7	-26.5	-36.7	-30.6	-18.4	12.2
販売価格	18.4	18.4	12.2	18.4	12.2	14.3	18.4	22.4	16.3	18.5	18.4	16.3	18.4	2.1
取引条件	-8.2	-12.2	-16.3	-14.3	-6.1	-8.2	-8.2	-16.3	-24.5	-16.3	-12.2	-16.3	-12.2	4.1
資金繰り	-14.3	-16.3	-14.3	-10.2	-12.2	-16.3	-16.3	-16.3	-20.4	-20.4	-16.3	-14.3	-6.1	8.2
設備操業度	-6.1	-4.1	-10.2	-6.1	-4.1	2.0	-2.0	-4.1	-10.2	-8.2	-6.1	-6.1	-6.1	0.0
雇用人員	-2.0	-10.2	-8.2	-8.2	2.0	-10.2	-2.0	-10.2	-10.2	-12.2	-6.1	-8.2	-10.2	-2.0

※DI値・・・好転（増加・上昇）したとする割合から、悪化（減少・低下）したとする割合を差し引いた値のこと。

徳島県中小企業団体中央会

前年同月比DIの推移

売上高 収益状況 景況



[景況関連の報告]

【製造業】

<食料品>

1. 味噌・前年同月比で味噌の生産量は103.1%、出荷量は99.8%であった。前月比で味噌の生産量は105.1%、出荷量は92.4%であり、前年度に対して生産量ではやや回復したが出荷量では前月比を下回っている。出荷量は今年2、3月は落ち込んだが、4、5月は前年並みに回復しておりコロナ前の水準に近づいている。味噌の需要は夏場は例年落ち込むので、今後は需要喚起のための新たな商品開発や、販売手法の工夫が望まれる。
2. 漬物・漬物製造業者では前年に比べ販売が上向きになってきているが、漬物業・農家ともに労働力の不足に悩んでいる。技能実習生の入国が再開しているものの、引き続き人員確保が出来ていない状況である。

<繊維・同製品>

3. 縫製・自動化による生産効率向上がまだ整っていない中、労働力不足は相変わらず続く模様。設備等の生産体制を中長期的に再構築を進めるなか、コンサル等によるテコ入れを継続中である。生産面は、下期に向けて備蓄生産が加速する。値上げは、生産関係の原材料費他は、ほぼ全取引において値上げとなり、一般管理費にも広がってきている。為替による生産の影響も大きい。

<木材・木製品>

4. 製材・木材価格は高止まりで、製品在庫は減少している。資材コストの高騰から住宅価格が上昇しており、今後の住宅着工が伸び悩むのではという憶測から、木材市況は先行き不透明な状況。
5. 木材・木材関連情報として6月においても大きな変化はなかったと思います。1つ言えることは、住宅木材として従来であれば米ツガ、米松などの外材が使われる箇所・部分ではありますが、あまりにも外材の価格が上がってしまい、使うことが出来なくなり、その代用木材として桧が使われている。

<印刷>

6. 印刷・6月までは総会など定期的な行事が少しはある。毎年のことではあるが7月になった途端に閑散とした状態となる。紙の卸問屋さんに聞くと、6月の落ち込みもひどく、引き続き打つ手模索中とのこと。我々もイベントや行事、催し物を追いかけ、個々のお客様からさらなる需要を引き出す、工夫と実行をしていかなければならない。また、7月に入ると封筒の販売価格が10%以上のアップとなる。用紙価格の高騰も価格転嫁には進んでおらず。益々厳しい状況が予想される。

7. 印 刷・6月下旬に四国4県の印刷工業組合の組合員が、2年半ぶりにリアルで集まって情報交換を行った。ほとんどの組合員が厳しい状況が続いているとのことだった。用紙、インキ、PS版、副資材がのきなみ値上がりし、そのコストをお客様に転嫁できずに困っている組合員もいた。ペーパーレス化が進み、また二次値上げもある状況でこれからどうしていくか頭を悩ますところだ。

<窯業・土石製品>

8. 生 コ ン・6月の出荷量は昨年同月と比べて約21%増加した。この時期梅雨入り後とあって出荷量は少ないと思っていたが、雨があまり降らなかったことと、民間工事の打設があったこと、堤防工事等のまとまった打設が少しずつあったことが思ったより出荷量が伸びた要因である。
9. 生 コ ン・6月の出荷数量は、対前年同月比横這いであった。要因としては官民とも大型工事受注はないが、小口案件の積み重ねにより前年並みでの数量実績となった。収益状況については、原材料であるセメント価格の引き上げに続き、骨材・混和材などが値上げされており、生コン価格の引き上げ効果が出るまで厳しい状況に変わらない。

<鉄鋼・金属>

10. 鉄 鋼・全体的に景況感は改善しているようであるが、原材料高が続く中、コストの価格転嫁の遅れなどにより利益率が低下しており、先行きの不透明感が拭えない。今後の原材料価格やコロナの動向などの影響を注視したい。
11. ス テ ン レ ス・新型コロナウイルス感染数は下げ止まりの傾向であったが、再び増加傾向に転じて油断は出来ない状態となっている。国内外ともに企業活動再開に向けた動きが活発化しており、感染対策を実施しながら対応を進めている。引き続き、材料価格の高騰、電気部品・装置部品の長納期化、原油高は継続している。加えて円安状態も長期安定化の方向にあって、先行きの不透明な状態が継続している。

<一般機器>

12. 機 械 金 属・新型コロナウイルス、ウクライナ情勢等の影響により、営業活動の停滞、部品の調達難、原油・原材料価格の高騰等から、売上高や引合いなどに厳しい状況が見られ、一部に景況感の持ち直しの動きも見られる一方、引き続き、先行きが見通せない不透明な経営環境が懸念される。また、需要の停滞をはじめ、円安による小売価格の高騰、従業員の確保難なども、引き続き、経営上困難な課題として見受けられる。

【非製造業】

<卸売業>

13. 食 糧 卸・新米の価格に注目。

<小売業>

14. ショッピングセンター・6月の前年対比は売上99.3%、客数95.5%で、先月によく似た状況です。今年に入り、1月94.4%、2月98.3%、3月99.0%、4月108.8%、5月99.6%、6月99.3%と100%を超えたのは4月だけですが、1~6月の累計では99.8%です。コロナ禍の現在、そこそこの数字と思います。ただし客数は95.7%と減少しています。業種別には、身の回り品と住居関連が同じく103.3%、食品98.7%、衣料品95.8%となっており、どの業種が好調で、どの業種が特に悪いといった差は少ないです。
15. 各種商品小売業・厳しい社会情勢と同様に組合の収益状況も悪化したままである。7月には新テナントの入店も決まり、明るい方向へと徐々に好転してくれることを期待したい。
16. 量小売業・新築現場の仕上がりは遅れ気味で営業用は低調。一般家庭用は梅雨時期でもあり少ないが、中古住宅のリフォームは安定している。30年前の住宅には量の間が多いとつくづく思う。
17. 電気機器・商品・部材・部品等、全般的に仕入れ価格の上昇が続いており収益を圧迫している。

<商店街>

18. 徳島市・組合から脱退する飲食店あり。コロナ禍で組合費の支払いが負担になっているとのことでした。週末の人通りは増えてきています。
19. 徳島市・アミコ東館1Fの無印・ロフトが6/30オープンで少し賑わいは出て来た。しかし依然としてデバ地下、間の階の空きが多く閑散としている。商店街の空き店舗も何とかしたい。
20. 鳴門市・納涼市、大道阿波おどりの実行委員会などで組合は忙しくなっております。売り上げは年度末より5、6月の方が売れました。

<サービス業>

21. 広告業・7月施行に向けて仕入れが増え、機械稼働も増えている。仕入れ値上昇に伴って販売価格を同じように上げていくことは、顧客離れの懸念があり難しい。
22. 土木建築業・前月同様、人員増加により人件費がわずかに上昇。コロナ対応、対策のため、テレワーク・リモート設備等に投資し充実させ、1室借増したことで事務所経費が増加。
23. 自動車整備業・6月度の新車等即台数は、登録者の中古車販売台数のみ前年度を維持し、その他すべて前年度割れ。新車販売台数は登録車・軽自動車とも前年を下回り、登録者の新車販売台数は-12.4%。これに対し、中古車販売台数は軽自動車の落ち込みが大きく-19.7%。トータルでは対前年度比-9.8%となった。コロナ禍による部品供給の遅延で新車納期が大幅に遅れていることにより、中古車の販売台数は増加した。中古車の販売が好調と同時に、市場では中古車不足の状況が続く、中古車の値上げの大きな要因となっているようだ。収益情報の目安とみている継続検査の台数は、登録者は3.9%減、軽自動車は1.1%増という結果。

24. ビル管理・近年の最低賃金の急激な増額改定、原材料費の値上げ等が相まって厳しい経営環境が予想され、これらに対応するべき事業活動に当たる必要があります。特に最低賃金の引上げによる経営圧迫については、契約先に理解を求める活動を粘り強く行っているところです。依然としてコロナ感染者は高止まりが続いていますが、ワクチン接種率が向上し、ウィズコロナの意識も広まり、色々なところで人流の増加がみられます。ホテル分野のメンテナンス業ではそれらに加えて、県民割などの助成制度もあり、稼働率もコロナ前に近づき、売り上げ増につながっています。しかし、コロナ対策に特化したホテルはまだ継続中であり、全体的な回復には至っていません。また病院等医療施設におきましては、コロナ感染防止対策は依然厳しく、作業仕様の減の状況は続いています。

25. 旅行業・県民割の後の「全国旅行支援」という企画があるという情報はありますが、具体的なことが不明で今後のプラン作成や営業活動をどう進めていったらよいか分からない。ガソリン高もバス運営等影響がある。コロナ感染者数と増加になり第7波とも言われ資金繰りが大変厳しい状況です。

<建設業>

26. 建設業・変わらず資材が高値となっている。西日本建設業保証(株)徳島支店の公共工事動向によると、県内の5月の公共工事は対前年比で発注件数(-10.3%)及び請負金額(-1.7%)ともに減少している。発注工事が少なく、技術者が余っている企業が出ている。

27. 板金工事業・今月の上棟数は昨年並みに増加しているが、材料費の値上がりは続いているので、利益率は悪化している。

28. 鉄骨・鉄筋工事業・材料の値上げ幅はある程度落ち着きそうな気配。しかし副資材はまだまだ不透明な状況が続いています。

29. 電気工事業・新設住宅口数は118件で、昨年同月比52%となった。

30. 解体工事業・徳島市都市部において大型解体工事の発注が公共工事、民間においても活況。また石綿障害予防規制が改正され、今まで以上に石綿対策が強化される。工事前に石綿の有無を調べる事前調査等について労働基準監督署・徳島県等届出石綿含有建材事前調査等について資格者(厚生労働大臣が定める講習を修了した者)等が行うことが義務付けられています。

<運輸業>

31. 貨物運送業・営業日数の少なかった5月と比べて、平均的に売上高は増加したが、ロシアのウクライナ侵攻による原油高を受け軽油単価は国の補助があるものの前月比で約6円の上昇となった。運送業界は、燃料単価の上昇に対して、運賃値上げは難しく、稼働率が上がるほど、経費増で利益の確保が難しい状況にある。

32. 貨物運送業・運送事業者からは引き続き燃料価格高騰で非常に苦しい経営状況の声を多く聞く。荷主企業に運賃交渉に動く事業者も増え、少しは運賃をあげてもらったという声も出だしたが、まだ多くが運賃値上げをお願いしたくても、交渉したことにより取引がなくなることや減荷されたりすることへの心配から運賃交渉をしたくても交渉の場にさえ立てていないという状況にある。これからの運送事業を成り立たすためにも荷主企業との地道な交渉が今後の運送業界の明暗を分ける。